煙巖山鳳來寺勝岳院 三州設樂郡門谷村の山嶺にあり 天台真言の二流なり 多宝

○本尊藥師佛 長さ八寸 開基利修仙人一刀三禮の作 日光月光 十二神將 四大天王と安倍秘仲

○神祖御宮 諸堂の上方にあり 御宮殿壮麗微妙 別當職 天台學頭 松高院

拾き

紀氏源

この山ふかさ名櫻は色えんの人の國ふもとの〻〻しとをおりゑ

ふるさとの秋は代々あひ〻〻今は心もとをゝ〻れ

送爽鳩子方之三河 憶君奉使向三河路入函関 倉海波物茂卿

杜若水寒芳州歌芙蓉峰齊白雲多

吹笙幾訪鳳來寺置酒誰聽奥麗歌

聞說登臨名蹟徧嵩山少室定如何

○鎮守三社權現 中央熊野權現 左山王地主權現 右白山權現

利修仙人の身子心月坊祐仙勸請

○い所護法神 利修仙人百濟國より渡朝の時この人の護法神

香華の棒に隨從し奉り因茲勸請

○開基利修仙人堂 此堂は飛彈の逐に造れるとなり飛彈の逐とは

其人のくこゝに限れる名なり盛長三の國七行堂

造立の其一堂とかく

○常行堂 本尊は阿弥陀佛 此堂は後九郎盛長三の國七行堂

造立の由緣なり

○三層塔 源頼朝の建立 梶原景時奉行のこと云傳へり

常行堂と此塔とは昔の姿なり 遠望のこと云

○鏡堂 護摩堂の後にあり 某師の東方大圓鏡智なりと云 緒人の願より

渚願成就院の堂に模し 利益成就し奉る人 某師の堂人 鏡を奉り

鏡堂の由緣なり 高山

○八幡宮 ○伊勢兩大神宮 ○辨財天祠 ○天神祠

○昆沙門堂 ○一王子 ○二王子 ○荒神祠 ○弘法大師堂 ○元三大師堂

○鐘樓 ○樓門 諸堂の次第圖畫なり 樓門の額は光明皇后の所書なり

風來寺と書も左右は金剛力士

○名號題目石 樓門の後にあり 弘院の名号と法華題目なり 慶安四年

篠原氏建立 これを弘法大師の投筆と称し 流人の記也

○八王子祠 蘇の門谷町にあり ○妙法隨 高隨の

生土神 下にあり

○奥院 本堂より九町許山奥にあり ○い本杉 奥院の路傍

白山權現 不動尊 安倍 あり

○煙巖山 本堂の西に高れり 此所は利修仙人護摩を修せる燈明

巖上に立昇る煙は名と成 開基の山居の地なれば高きの山号とせり

○勝岳院 本堂は乾に當る 利修仙人ここに住して 簫と籟の音樂

仙人といふ名あり 又籟れる岳なれとて院号とせり 式安

仙人の作られし不動尊又役行者の作りなり 不動そもあり

一宇に安置せり 乾の岩面に八大童子の像あり

○瑠璃山 奥院の乾に高れり 利修仙人

瑠璃の壺を埋し所といふ

○隱し水 西谷にあり 利修仙人の加持水と旱天霖雨に増減なり

其水繁茂の中にあれば隱しとかく

○高座石　○巫女石　俱ゝ本堂より乾の方にあり利倹仙人山神の招請巫女天降りて聽聞し仙人説法し給ふ所を高座石といひ巫女祈願し歓喜せし所を巫女石といふ

○尼行道　谷にあり昔ひとり浄行尼といふ人利倹仙人と行ひ給ふ時仙人ゆゑなく女人を汚穢の身なりとて嫌ひ給ふ尼怪しみ岩頭に昇りて一七日遠見ましましけれども仙人見へ給はざりしかば怒りて岩を投げうつに忽ち碎けて落谷に入りそのかの谷を尼谷といひ今に尼の行道と云ふ

○行者帰　當山の峰より東の方大堂に行道を役行者登山の時岩路嶮くして登りがたきを歎き給ふ利倹仙人ふ遇の道より到り利倹仙人ふ遇の名あり

○猿橋　當山の南にあり むかし勅使公宣卿登山の時溪川深水にして橋落ちて忽然として猿数百出て足を組合ひ橋となりて勅使を渡せしに名あり又今の橋数本の

○篠谷　南の方ふ當るむかし浄瑠璃姫當山の本尊薬師佛を信仰し篠谷に棲み日毎に浄瑠璃を唱へ示現に蒙り十二夜の浄瑠璃に宿初

○山伏堂　○馬背　○本鼻　俱ゝ當山にあり いづれも嶮路なり

まゝ當山は推古天皇の勅願にして利倹仙人の開創にして其比上宮太子攝政し給ふ時三河の國司奏して曰桐生山に桐樹あり桐傳神代より此靈樹に其高四十九丈圍三十九尋虚洞あり大室のごとし龍其

虚洞に棲其西の枝に巣を構へ棲み其尺八恐尾の尺文能全身五彩金翠にして鳴聲嘒々たり人ゝまで其名を知る者一日三尾羽を落す故に是を献ず其洞中に併像あり金石にあらず土木にあらず玉を拾ひ寶壺を持して金光あり奏聞に及ぶこれ仏国日本にして風俗の尾を代る文徳を好む今生るの蓋階下神皇の紀を闡化儒佛の道を弘るの表彼佛像は瑠璃光佛なり後代龍去て精舎と成る 同帝此御字紀を蒙りて利倹仙人當山七年相伝

一株代に薬師日光月光十二神將四大天王を彫刻し巖上に安置公卿貴人の是を皇子皇子の驪を駕して空中を飛ぶの如あり是三の國殺樂の峯と云ふ傳あり故に薬師と称ず厳后　文武天皇御悩の時鹿破公真々と勅使として仙人を召の利倹仙再三辞しのゝも勅命遁れがたく參内ありて加持をなすに霊験忽平癒ありて其時天皇仙人の意願を勅問ありて云煩あを抽ず青苔を衣し松實を服して名利を親しまざれば何ぞ願心なり國家安泰の祈禱なして伽藍を建て尊彩

と安置せんず事ありけれ奉来れ願をもと奏しなれば感ありて大宝三年遣臣其後
光明皇后御願にて鳳来寺の額と賜ふ青赤黒の三鬼ありて常ふ利修仙ふ
隨従せり仙人入定の時此三鬼の首を茅師堂の下に埋こ南山乃守護神とも
元和年中本堂炎上の後蓮花折拾石横たりとされ出し南山の衆僧初て
三鬼首をとらるるとも元のやく封じて藏め埋しとい宿者利修仙人の弟へ
勅使公宣卿登山の打ち奉宮嶽へ昇ると其時老翁現れ導びして勅使
公南山へ送りまふ公宣卿御歌

霧や海山のまやこい洗ふ似く涙ひとさけば　松風の音

本宮嶽の神傳ふも此事と記せと毎年月三日十四日に茅楽を飛び獅子舞
田楽候正曾此節捧ぶ振も此三鬼の由縁とい拝開山利修仙人の原山城國三条
里賀茂間賀都岐麻呂の子也　欽明天皇紀三十一年庚寅四月七日ふ誕し利修
童子と号く成長の後忽然さ〜〜此山嶺ふ来り爰中に五巻山の長狭仙人
ふ謁し千巻のまを授かるゆふ其峯ふ千壽峯と称も其後万壽ふ

保ちたるより万壽坂と云所今あり　陽成帝元慶二年利修仙人三百九載
の時勝蛇の深窟ふ入定し南来蛇氏の出世を俟とい厳窟ふ池水あり今に
時々振鈴の音幽ふ聞ゆるきこれ武陵人桃花源ふ遊ふ似たり也江府此来
よふ清ちるを〜〜秋葉山より登りて山路八里と麓へ〜〜ふ到る京師より清
ちるを御油の驛ふ端より入く南門まで八里餘あり

篠田　大沐　半田町　武里　長山　小岡　柿木　東上　中村　御油　上宿　八幡
野田　新城　里半半十六丁　宗高　志多羅　大壺　岩屋　野口　源　訪　教　隆
反波　新間　門々　俵井田　大見　錢亀　鳳来寺門前ふ門谷町とく
瀧川　豊川の上流　追分　門谷　現在の茅師堂の所　茅金名　稚児　河路

絶泊るあり左れより樓門ふ入く石階ふ登る事数〜九町あり
町毎ふ石標あり左右ふ老杉蓊鬱さて旭の出る事遅々さり陰陽の面側
ふ僧房連りて実名真言の二流あり一念三千の諸法を敬し胎金両部の鵜
磨會ふ具し次第ふ光れば寶閣金塔神窟仏壇珍瓏さて壮観さり
真ふ王維が併を好し山水絶勝さる清涼寺ふ比して奏州ふ名を得る
第一の名刹ふ〜〜

国立国会図書館　タイトル『東海道名所図会』 請求記号 839-82
ガラス使用

石巻神社 八名郡神郷村ふあり吉田より七里餘東ゆ二川のゆく延喜式内
例祭正月十五日九月十六日

祭神大巳貴命 風土記云三河國八名郡美和神社圭田五十束
所祭大巳貴命也 齊明天皇元年乙卯始テ
奉圭田加神禮有神家巫家云云蓋此社乎 文德實
録云仁壽元年冬十月授參河國石纒神從五位下
毎年正月十五日羊穀占の神事あり神おあて粥を煮て十八ちの釜ふたをして
粥の釜へ入其釜の中へ穀殼の入るさはあく其年諸穀の豊凶とはあり
穀占の神事に鹿肉拔ひ泉の間ふもあるこの内牧正神社拔川郡上郡
安濃郡社等ゆる名高し

潔占もめそ〳〵しくしと大根引 三州吉田 木朶

窟觀音 吉田より七里半東大岩村山間ふあり
亀見山窟堂と号く禪宗
富士紀行 老子孝法印
老の代をかくれぬさくれ石のみる大岩山と宮まて

布尊千手觀音 行基の作長三寸天平二年造立とゝり初は石窟ふあて
堂内の額施無畏と書を寛政六年播州姫路酒井侯
自筆して大巖 堂後ふたり高サ八丈幅九丈餘岩形亀ふ似うり故ふ山號
喜捨ゆる岩窟あり又岩頭る銅像の正觀を造あり明和二年
江戸谷中より寄進を
遠拜ふうゆ
白頂笑ゆて去る里右の方ふ田原山遥ふ見ゆ

二川 荘駅 三河
五つげろふ〳〵のゆのゆ山はれも三河のうちとそ見ゆ 光慶卿
國をみゆそ里ゆ〳〵あいまれ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ